

2015 年度秋期卒業式式辞

2015 年 10 月 12 日 尾池和夫

今日、京都造形芸術大学を卒業して、学士の学位を得られた芸術学部 20 名の皆さん、通信教育部芸術教養学科の 8 名の皆さん、まことにおめでとうございます。列席の、ご来賓、学校法人瓜生山学園の役員、副学長、研究科長、学部長、各学科長、センター長、教職員とともに、学位を受けられたことを、こころからお慶び申し上げます。また、ご家族の皆さま、まことにおめでとうございます。

今日まで皆さんは、制作に、学習に励んでこられました。また課外活動やボランティア活動、旅行、学友や先輩との議論など、学園生活を謳歌してこられたことでしょうか。失敗も成功もあったことでしょうか。いずれにしても、それらを超えて、今日の式典を迎えられました。

京都造形芸術大学で学士の学位を得た方は、通学部の卒業生、9936 名、通信教育部の卒業生、5743 名です。その中の多くの方が、世界の各地で活躍しています。今日の卒業式を迎えた方々にも、これから進学する方もあり、あるいは社会に出て思い切り活躍する方もおられます。くれぐれも健康を大事にして、何よりも元気で、ご活躍して下さいよう祈っております。

今日の卒業式を迎えた方たちの中には、2013 年 10 月に入学されて、最短の 2 年間で卒業式という方が 8 名おられます。また、一方ももっとも長く在学された方は 2010 年 4 月に入学された方で、5 年以上、それだけたくさんの授業料を大学に納めてくださった方もあります。また、多くの方が東日本大震災の直後の入学で、ご苦労があったことと存じます。さまざまな事情があって、在学の期間は変わります。その間、海外に留学されたり、社会で活躍したり、大作に挑戦して時間をかけたり、さまざまな悩みを抱えてそれを乗り切ったり、多様な人生がこの卒業式にはあるでしょうが、それは、それぞれその方の人生にとって意義の深いものであったに違いありません。大いにその貴重な経験を活かして今後の活躍に結びつけていただきたいと思います。

この大学の学長に私が就任したのは 2013 年 4 月 1 日ですから、今日卒業される皆さんの中には私よりも長い間この大学におられた方がたくさんいます。私が最初にこの大学の入学式で式辞を述べたときには、「京都文藝復興」が読み上げられた後に、この理念は、目前に新しい世紀を迎えようとするとき、本学の創設者である徳山詳直理事長が高らかに描きあげたものですよと言いました。その後、人間館の 1 階に「芸術立国之碑」が建立され、皆さんも毎日その碑の前を通過して通学しました。徳山詳直さんは皆さんの卒業式を見ること

なく亡くなりましたが、その精神は皆さんの中に生きていることと思います。

皆さんが芸術に挑戦する中で、芸術とは何か、人とは何かを考えるために、2013年度の「春の顔見世」展には、チンパンジーのアイが、私のために特別に描いてくれた絵を展示しました。この絵をもとにしてさまざまの議論が行われています。私も芸術とは何か、人とは何かという問いに答えようとして、いろいろの方たちと話してきました。

人と、チンパンジーと、そしてイルカがよく似ているという説があります。イルカは自己を識別できる感覚を持ち、人と同じような自己認識能力を有しているというのです。イルカは凶暴で赤子や同族を殺したり、リンチやイジメでストレス発散をすることがあるそうです。チンパンジーにも同族殺しがあります。これはカマキリの様な生物の生存本能とは違い、人と同じように文明が発達していれば戦争が起きるかもしれないような殺害の行為です。

また、ボノボが枝を集めてマッチで火を付け、マシュマロを枝にさして焼いて食べるという場面が放送されて知られるようになりました。英国のBBCの動物ドキュメンタリー番組で撮られた映像です。このボノボもチンパンジーもそして人も、共通祖先を600万年前に持っているのですが、塩基配列を数えて、98.5%前後が、チンパンジー、ボノボ、人で同じです。

一方、人は感情をコントロールすることができ、怒りという本能を抑える事ができる唯一の存在かもしれないといわれます。また人は長期の記憶力を持ち、情報伝達の能力を蓄えてきました。そこに芸術が平和に貢献するための出番を見つける可能性があるのかもしれないかもしれません。

何はともあれ、芸術文化探求へのとどまることのない研鑽が、人類の未来を希望あるものへ導くと、私も信じて仕事をしています。芸術立国という本学建学の精神をしっかりと受け継ぎながら、この最高学府の伝統を活かし、さらに発展させるよう努力を続けていくつもりです。

皆さんが卒業した後も、この学園の中に皆さんをいつでも迎えることができるように、同窓会の組織を整備し、間もなく訪れる学園の設立40周年に向けて、さまざまの整備を続けていくつもりです。皆さんも将来、機会のあるたびにこの母校を訪れて、後輩たちの活動を見守っていただきたく存じます。

心身の健康に心がけて、さまざまの立場でご活躍くださることを願って、皆さんの輝かしい未来を祝福して、私の卒業式での式辞といたします。

まことにおめでとうございます。ありがとうございました。